

「宣言」6都府県に

感染連日 1万人超

「今こそ国会開け」野党国対 委員長会談

共産、立憲、国民の国対委員長は7月28日、コロナ感染の急拡大は「国民の命にかかわる危機的な状況であり、いまこそ国会を開くべきだ」との認識で一致しました。憲法53条に基づく臨時国会召集要求にただちに応じるよう求めることを確認しました。

安倍前首相 再捜査へ

検察審査



「桜」前夜祭で壇上に立つ安倍首相(当時)=2018年4月、自民党・北村経夫参院議員のフェイスブックから(画像は一部加工)

「桜を見る会」前夜祭 不起訴は不当

安倍前首相の後援会が「桜を見る会」前夜祭で地元有権者の飲食代を一部負担した公職選挙法違反事件などで安倍氏が不起訴となっていたことについて、東京第1検察審査会は7月15日付で、「不起訴不当」と議決しました。検察審の議決書では、十分な捜査を尽くしておらず、「不起訴処分の判断には納得できない」と指摘。最後に「総理大臣であった者が、秘書がやったことだと言って関知しないという姿勢は国民感情として納得できない」と強調しています。

危機感持たず楽観論ふりまく

新型コロナの新規感染は7月29日に1万人を突破、専門家は「経験したことのない感染拡大」と指摘しています。最大の問題は菅首相が危機感を持ち合わせていないこと。日本共産党の志位和夫委員長は記者会見で次のように述べました(7月29日)。

①首相は五輪開催を強行し、国民に誤ったメッセージを送り続けている。今からでも五輪は中止し、命を守ることにすべての力を。

②首相が説明責任を果たさず、根拠のない楽観論を振りまいている。こうした姿勢を正さ



五輪開会式翌日の国立競技場近く。多くの人々が詰めかけました。7月24日(「しんぶん赤旗」提供)

なければ打開の道は開けない。



人流は思うように減らず、全世代へのワクチン接種は「第5波」に間に合いません。危機感を共有しない菅氏は余りにも首相の資格に欠けています。

日本共産党

首相は根本姿勢正せ

志位委員長が記者会見

五輪開催 気を緩める

「五輪を開催していることが、緊急事態宣言下であっても気を緩めていいと国民に信じ込ませる心理的效果をもたらしていると専門家は指摘している」[「バブル方式は…穴だらけ」(電子版、7月29日)]

外出可と感ずるよう

都内の繁華街に「多くの人が出ている」と報じ、「都民の多くは、東京都や政府が熱心に五輪を推し進めていることで、外出してもいいと感ずるようになっている」と指摘。(7月30日)

NYタイムズ

ロイター通信